

我が署の新規・拡大収入への取組について

坂下・川上森林事務所 ○平栗 利治
業務課収穫係 佐藤 傑

要旨

我が署では、ヒノキの葉の販売、苗畑の空き地での「そば」の栽培、山の産物の無人販売所の設置等の新規収入・拡大に取り組んだ。

はじめに

今、国有林野事業においては、改善計画に即して経営の健全化に向けて、自己収入の確保に懸命の努力を講じているところであるが、引き続き厳しい状況にあることから、更に収入の新規・拡大が強く望まれているところである。

こうした中で、当署においては業務方針に「職員一人ひとりの企業的感觉の下に、創意工夫を凝らし、最大限の収入確保に取り組む」を掲げ、いろんなことにチャレンジしているので、成果の得られなかったことも含めて、その実例を紹介する。

1 いままで取り組んできた事例と問題点

(1) 小木工品の製作販売

花台、壁飾、すりこぎ等を製作販売し、一定の成果は上がったが、現状の職員状況では困難となっている。

(2) 土石・砂利の販売

治山用低ダム群に堆積している砂利の販売は、雑収入での唯一の収入源であったが、量的に厳しくなってきた。

(3) ヒノキ種子の販売

苗畑へのまきつけをやめてから、採種林からの種子を民間業者へ販売した。年により豊凶があり安定的ではない。

2 今年度取り組んだ事例

(1) 環境緑化木の販売

造園業者を林道沿線の山へ案内し、買い受け希望を伺ったところ、買い取ってくれる様子は全くなかった。

当署管内はヒノキ・スギ中心の人工林が主で、手間をかけて掘り取り・運搬するほどの、まとまった数量が少ないことが原因である。

(2) 花木類の販売

以前マルバノキ（ベニマンサク）の葉を販売したので、同業者に買取依頼したところ、当管内のものは、木曽谷のものと比較すると、品質が落ちるとのことで、販売出来なかった。

(3) 山菜・きのこの販売

きのこは類は人工ヒノキ主体の林相でほとんど皆無の状態であり、山菜についても、林道沿

線を中心に探索したが、まとまった物がなかった。

(4) 古道具の販売

下刈鎌・唐鍬等の古道具を、地元村のイベントに出店販売したところ、大変好評であった。これからも、使わなくなった古道具等は、こうした機会に地元市民等に販売していきたい。

イベントでは、古道具の販売と併せて、地元の航空写真の実体視体験、国有林関係のパンフレットの配布等でPRを図った。

(5) ネームプレートの製作販売

ヒノキの枝を地元森林組合で斜め切りしてもらい、職員が仕事の合間に表面を磨き、クリップを接着したものを、国道沿いの土産物店・健康温泉施設内の売店に展示販売してもらっている。

また、官庁・民間企業等へも売り込みをしているが、自分で筆等で名前を書かなければならず、うまく書けないとか、合成樹脂製のものをまとめて購入している等の理由で、売れ行きは不調である。

(6) ヒノキの葉の販売

輸入松茸の入れ物の下敷きに、ヒノキの葉を使っているとの情報を得たので、名古屋の青果業者に問い合わせをして、2回で約100kgを販売し、11,400円の収入を得た。

ヒノキの葉は、採種園の採種用に切り落とし、種を採った後の、枝つきの葉を集めて梱包し、宅急便で送付した。

青果業者は、品質は良かったが近くで間に合う・まつたけが少いとのことと、以後取引できなかったことから、早速、名古屋市内の電話帳を取り寄せ、他の業者にも問い合わせをしたが、引き合いはなかった。

ヒノキの葉は、価格は安いが資源的には十分あるので、他の利用方法を模索するなど、引き続き努力していきたい。

(7) 伐根の販売

林道工事等の支障木の伐根を、工事請負業者に掘り取ってもらい、販売した。比較的小さいものは一般市民が、大きいものは木材加工業者が買いとってくれた。

今後も、工事請負業者の理解・協力を得ながら実施していきたい。



写-1 ケヤキの伐根

(8) 庭園資材の販売

庭園用のこけ類、玉石、築山用山土を、一般市民に販売した。

(9) そばの栽培

ア きっかけ

(ア) 苗畑の空き地を放置しておくと、雑草が繁茂し、その除草に多くの経費と労力を要する。

(イ) 降雨の度に、民間の水田や道路に、畑の土が流れ出て、時々苦情を受けていた。

(ウ) 畑が乾燥すると、土埃の飛散で民家に迷惑をかけていた。

等の問題を解決する必要があったことから、その対策として、そばの栽培をすることにし

た。

イ 利点

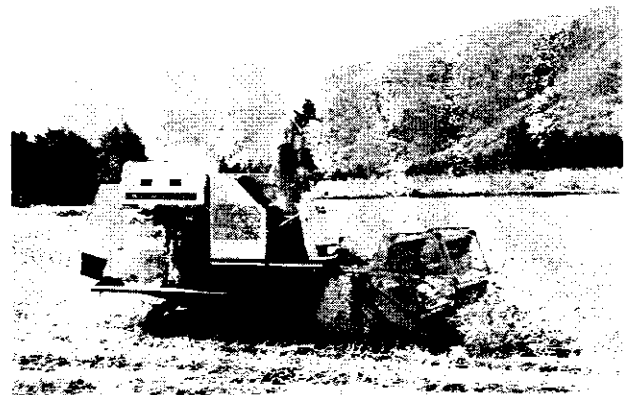
- (ア) まきつけ後の手間がいらぬ。
- (イ) 雑草が抑圧される。
- (エ) 表土の流出が抑えられる。
- (オ) 開花時期には、美的環境が形成される。
- (カ) 短期間で成長し、効果が早期に得られる。
- (キ) 現有トラクタ等の機械が活用出来る。
- (ク) 収入の期待がもてる。
- (ケ) 一般的に「そば」に人気があり、坂下町馬籠・妻籠・開田等の需要地域を控えている。等が考えられた。



写-2 「そば」の開花の風景

ウ 実施方法

- (ア) 種子は農協から「信濃1号」を購入した。
- (イ) トラクタで耕耘し、手まきをした。
- (ウ) まきつけ面積 3、66ha
まきつけ 8月3日～10日
刈り取り 10月5日～26日
- (エ) 乾燥を農協へ依頼。
- (オ) 風選機で選別。
- (カ) 食糧事務所の検査。
- (キ) 袋詰め。



写-3 農協のコンバインを借用して刈り取り

エ 収穫量

規格外	400kg
計	3,900kg

オ 販売関係

開田村、白川村、坂下町、及び農協へ販売した。

総収入	968,000円
種子代	210,000円
苦土石灰	29,000円
農協支払	183,000円 (コンバイン借上げ代、乾燥代、袋代)
純収入	546,000円

カ 結果

- (ア) 苗畑の空き地問題が解決された。
- (イ) 一定の収入が得られた。
- (エ) まきつけ床づくり、まきつけ、刈り取り、選別、袋詰め等に人手を要した。
- (オ) 9月15日前後の開花時期には、美的環境が図られ、新聞報道されたこともあり、約200人が見学に訪れた。

(10) 無人販売所の設置について

ア きっかけ

(ア) 神坂森林事務所近くに、大型健康温泉施設・ふれあい牧場ができたこと、また、神坂峠への観光客が増えた。

(イ) 国有林に存在する、自然が作り上げた小さな産物を、一般市民に提供すれば、山の魅力を知ってもらい、併せて国有林のPRが出来るのではないか、という声が現場職員から持ち上がった。

ことなどから無人販売所を設置することにした。

イ 施設

神坂森林事務所の敷地の一角へ、現場職員が仕事の合間に、約1ヶ月かけて完成した。

ウ 展示販売してるもの

国有林野に存在していて、自然に消滅してしまうもの、林道・治山工事等で埋没してしまうもの。

例 緑花木、山野草、こけ類、木の実、石、蜂の巣、根株、打ち出し木、へびの抜け殻、切り花
などである。

エ 具体的実施方法

(ア) 職員が現場へ出向いた折りに、手頃なものが目に付いたら持ち帰る。

(イ) 林道・治山工事現場にあったものは、業者をお願いして、採っておいてもらい、後日運搬する。

(ウ) 神坂森林事務所の職員が中心となって、仕事の合間に展示する。

(エ) 価格は、総務課長・経理係長・森林官で決定し、一定以下(500円)のものは、森林官に一任する。

(オ) 森林官に出納員を命じ、一定期間まとめて、現金を添えて報告してもらう。

オ 結果

(ア) 開店に先立ち、新聞報道がなされたため、無人販売所の存在を多くの市民に知ってもらうことが出来た。

(イ) 国有林で採れた産物を、一般市民に提供することを通して、山の魅力をPRすることが出来た。

(エ) 一般市民とのふれあいが出来た。

(オ) わづかではあるが、収入への期待感・楽しみが感じられる。

(カ) 職員に肉体的・精神的負担をかけることが少ない。



写-4 無人販売所の様子

という利点の他に、次のような問題点もある。

(キ) 仕事の合間におこなうこと、物があったら出すということで、品物を安定的に展示するこ

とが困難である。

(ク) ノートに希望の品物を書いてもらっているが、それを直ちに展示することが困難である。

(ケ) 条件の良い場所がない。(温泉施設の入り口あたりがよい)

(コ) 収入額とすれば少額であり、長く続ける必要がある

因みに、各事例毎の収入額は、次のとおりである。

(平成7年12月末現在)

土石・砂利	7,300,000円
古道具	45,000円
ネームプレート	37,000円
ヒノキの葉	11,000円
庭園資材	1,060,000円
伐根	50,000円
そば	968,000円
無人販売	75,000円

おわりに

国有林野事業の経営の健全化のためには、収入の確保が極めて重要であり、これに対し、これまでにもいろいろな対策を講じてきているが、資源的制約・労働力不足等から、効果的な取組が出来ないのが現状である。

今回発表した事例は、収入額とすればわずかな金額であり、大きな成果とは言えないが、職員相互の創意工夫から、先ず実践してみたものであり、まだまだ試行錯誤の段階である。

今回の実行結果から、現場職員等の日常会話の中から、ヒント・アイデアを引き出し、先ずは実行してることが大切であること、また、マスコミを大いに利用することが、一般市民へのPR効果と、国有林・森林に対する理解が得られ、こうした努力を市民から営林署はよくやっている、評価されるのではないかと感じた。

これからも、新たな収入の確保・拡大することは大変厳しいことではあるが、国有林の中の無限の自然資源を、あらゆる角度から見直し、そこから新規収入・拡大に結び付くよう取り組んで参りたいと考えている。